

金澤醫學専門學校解剖學教室頭蓋標品測量報告第一

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38473

十全會雜誌

(第四拾九號)

明治四十一年

原 著 及 實 驗

○金澤醫學專門學校解剖學教室頭蓋標品測量報告第一 (附三圖)

特別會員 中野鑄太郎

(澤金)

本報告ハ曩ニ金子教授ヨリ當教室頭蓋標品ハ長、中、短頭蓋ノ何レニ屬スルモノ多キヤニ就テ調査報告スベキ旨命ゼラレ爾來校務ノ余暇ヲ以テ調査シタル一小成蹟ニ過キスト雖トモ今本誌ノ余白ヲ借り公ニセントス尙重要ノ測量ヲ缺クモ後日更ニ調査報告ノ期アルベシ

本報告ハ前述ノ測量ヲ主トシ傍ラ容積等一二ヲ調査シタルモノニ過キサレモ他日本邦人頭蓋調査ニ際シ多少參考ニ供セラル場合アルベシト意思シ專ラ足立博士ノ中國(岡山)頭蓋ノ報告(東京人類學會雜誌第百六十二號)ニナラヒ余ノ得タル成蹟ヲ列記シ(小金井博士及ベルツ氏ハ本邦人頭蓋ニ就テ既ニ報告セラレシト雖トモ不幸未タ原著ニ接スルコト不能故ニ足立博士ニ依テ記載セラレタル平均數等ヲ借用セリ)尙比較ニ便センカ爲メ岡山及東京ニ於テ調査セラレタル頭蓋ノ平均數等ヲ并記シタリ

材料ハ二十歲以上ノ男女頭蓋百拾八個(男性六拾七個女性五拾壹個)ニ就キ調査シタリ(二十歲以上トナシタルハ別

ニ意義ナシ只二十歳以下ノモノ甚タ少數ナリシ故除キタルノミ)
 測量ハ次ノ如ク行ヘリ

容積ハ充分乾燥シタル小豆ヲ用ヒ(足立博士等ハ六號霰彈ヲ用ヒラレシト云フ)一頭蓋ニ就キ二回計量シ其平均數ヲ採用セリ

最大長ハ眉間ノ中点ヨリ後頭ニ向テノ最大距離ヲ測ル

最大廣ハ矢狀面ニ直角ニシテ水平ニ存スル頭蓋兩側ノ最大距離ヲ測ル

高徑Aハ金子教授ノ指示ニ從ヒ後頭孔前緣ノ中点ヨリ冠處縫合ト矢狀縫合ノ結合点ヲ測ル

高徑Bハ後頭孔前緣ノ中点ヨリ水平線ト直角ニ頭蓋頂点ヲ測ル

直長徑ハ眉間ノ中点ヨリ水平線ト并行ニ後頭ニ向テノ距離ヲ測ル

頭蓋ノ地平及正中ニ鋸斷シタルモノハ充分ニ結縛ノ上測リタルモ完全ナル者ニ比シテハ多少ノ増減ハ免カレ難シ?

平均數ハ仙迷以下一位ニテ四捨五入法ヲ用ヒタリ

成績ヲ列記スレハ左ノ如シ(各標品ニ就テ得タル數ハ略ス)

第一表

容積	金			澤			岡山		東京		
	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	平均	最小	
積	1470.3	1960.	1160.	1540.1	1960	1320	1378.6	1700	1160	1427.6	146.6

長 廣 大 徑 長 徑 直	金										澤		岡山	東京
	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	澤	岡山	平均	平均
最長	17.6	19.6	15.3	17.9	19.6	16.3	17.2	18.8	15.3	176.3			17.6	
最大	13.4	14.9	12.0	13.5	14.9	12.0	13.2	14.7	12.0	139.0			14.1	
徑A	13.3	15.1	11.8	13.7	15.1	12.7	12.9	14.4	11.8	137.7				
徑B	13.6	15.4	12.0	13.9	15.4	12.8	13.3	14.6	12.0		137.7		14.3	
高	17.9	19.2	15.8	18.2	19.2	16.6	17.5	19.0	15.8					

表二

長 廣 大 徑 長 徑 直	金										澤		岡山	東京
	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	澤	岡山	平均	平均	
最長	76.2	89.8	65.6	75.6	89.8	66.3	76.9	86.3	65.6	78.9			80.3	
最大	75.9	83.7	68.1	76.3	83.7	68.6	75.3	83.6	68.1					
徑A														
徑B	77.6	86.8	69.2	77.8	85.5	69.2	77.4	86.8	71.0	78.3			79.8	

表三 示數ニ從テ其頭蓋數ヲ區別スル

長 廣 大 徑 長 徑 直	金			澤			岡山
	頭蓋數	♀	♂	頭蓋數	♀	♂	頭蓋數
Dolichocephalie	(——75.0)	47	28	74.9	19	13	
Mesocephalie	(75.1—80.0)	44	29	79.9	15	43	
Brachycephalie	(80.1—85.0)	27	10	80.0	17	29	
Hyperbrachycephalie	(85.1——)					4	

長高示數 B	Chamecephalie	(——70.0)	1	1	0	0
	Orthocephalie	(70.1—75.0)	34	15	19	15
	Hypsiccephalie	(75.1——)	83	51	32	74
全 A	Chame.....	(——70.0)	7	2	5	
	Ortho.....	(70.1—75.0)	42	25	17	
	Hypsi.....	(75.1——)	69	40	29	

(足立博士ハ長廣示數ヲ四種ニ區別セラレシモ余ハラウベル氏著書第九版ニ據リ「」内ニ示ス範圍ニヨリ三種ニ區別セリ)

第四表 頭蓋長廣示數ニ從ヒ頭蓋ヲ配列スルハ

金	澤			岡		山
	頭蓋數	♂	♀	頭蓋數		
65.0—65.9	2		2	70.1—71.0	Dolicho.	1
66.0—66.9	1	1		71.1—72.0		1
67.0—67.9	3	3		72.1—73.0	2	
68.0—68.9	1	1		73.1—74.0	5	
69.0—69.9	2	2	2	74.1—75.0	4	
70.0—70.9	5	3	2	75.1—76.0	Meso.	6
71.0—71.9	4	2	2	76.1—77.0		4
72.0—72.9	8	5	3	77.1—78.0		10

73.0—73.9	}	9	6	3	}	78.1—79.0	}	12	
74.0—74.9		12	5	7		79.1—80.0		11	
75.0—75.9	}	15	12	3	}	80.1—81.0	}	12	
76.0—76.9		7	4	3		81.1—82.0		4	
77.0—77.9		13	8	5		82.1—83.0		4	
78.0—78.9		6	4	2		83.1—84.0		6	
78.0—79.9		3	1	2		84.1—85.0		3	
80.0—80.9		}	10	2		8		}	85.1—86.0
81.0—81.9	5		2	3	91.1—92.0	1			
82.0—82.9	7		3	4	}	}	}		
83.0—83.9	1		1	1					
85.0—85.9	2		1	1					
86.0—86.9	1								
89.0—89.9	1								

今三及四表ニヨリ頭蓋ヲ區別スルキハ當教室ノ標品ハ多ク長及中頭蓋ニ屬シ前者ハ三九、八%後者ハ三七、三%ニシテ短頭蓋ニ屬スルモノ二二、九%ナリ然シテ最も多數ヲ占ムル示數ハ七五、〇—七五、九ニシテ頭蓋數ハ一五ナリ
 高徑Aヲ區別スルトキハ Hyposi. ニ屬スルモノ多數ヲ占ム即チ五八、五%ニシテ Ortho. ハ三五、六%ナリ然シテ
 Chame. ニ至リテハ五、九%ニ過キス

同クBヲ區別スレハAノ如ク Hyposi. ニ屬スルモノ最も多ク即チ七〇、%ナリ Ortho. ハ二九、%ニシテ Chame. ハ甚

タ少ク即チ〇、八%ニ過キス

高徑 A ト B ヲ比較スルニ Hypsi. ニ屬スルモノハ B ニ多ク Ortho. 及ヒ Clame. ニ屬スルモノハ A ニ多シ又一及ヒ二表ニヨリ足立氏等ノ成績ヲ比較スルニ容積ハ金澤東京岡山ノ順序ヲ得最大長ハ三ヶ所共殆ト同シク最大廣、高徑 B、長廣示數、長高示數 B ニ於テハ東京岡山金澤ノ順序トナル

性ニ關シテハ足立博士ノ報セラレシ如ク當教室ノモノモ女性ハ一般ニ小ナリ

頭蓋ノ異常ニ就テハ足立博士ノ報告セラレシ前頭縫合及ヒ顴骨横分裂ノ二ニ就キ調査シタルニ左ノ成績ヲ得タリ

前頭縫合ノ存スルモノ	金澤	118 中	8 即チ	6.8%
	岡山	185 中	12 即チ	6.5%
顴骨横分裂ノ存スルモノ	東京	119 中	17 即チ	14.3%
	金澤	118 中	6 (頭側5) 即チ	5.0%
	岡山	170 中	2 (頭側1) 即チ	1.2%
	東京	188 中	9 即チ	4.5%

序ヲ以テ一異常頭蓋ヲ報告セン然シテ性及年齢等不明ナルモ推定スルニ四十歳前後ノ男性ナラン

頭蓋ヲ左ノ四面ヨリ見ルニ

上面左右不等形ニシテ左側ハ前三分ノ一ノ中央ニ於テ著シク突隆シ顱項骨ノ最高部ヲ占メ右側ハ之ニ反ス又矢狀縫合ノ前三分ノ一ハ右側ニ斜走シ同縫合ト冠處縫合ノ結合点ハ正中線ヨリ約一、五仙迷ヲ隔ツ
前面前頭骨ノ右側顱項縁ハ著シク低シ其他著シカラス

後面後頭骨ハ左側上項線附近ニ於テ稍々低ク感スルノミニシテ左右不等著明ナラス

下面右側後頭顆ハ著シク大_{長サ約三、五}ニシテ突隆シ左側ハ小_{長サ約二、七}ニシテ普通ノ高サナリ然シテ後三分ノ二ノ縁ハ著シク後頭孔ニ突出シ爲ニ後頭孔ハ圖(III)ノ如キ形狀ヲ呈ス

主ナル異常ヲ舉クレハ左ノ如シ

左側顛項骨ハ三角縫合ト殆ト并行シタル縫合ニ依テ前大後小ノ二部ニ分ル此X縫合ノ上端ハ三角縫合ト三、九仙迷下端ハ八、仙迷ヲ隔ツ故ニ前大部ハ上方廣ク下方狹シ後小部ハ之ニ反ス又X縫合ノ下三分ノ一并ニ其前下方ニ導血管孔ト覺シキ二個ノ孔アリ尙矢狀縫合ノ後三分ノ一ノ前部(右側顛項骨ニモ同位置ニ存ス)及前三分ノ一ノ後部ニ導血管孔アリ

左側顛項骨鱗狀縁ニ於テ四個ノ大ナル縫合骨存在シ其内二個ハ前大部ノ下方即チ胡蝶隅ニ於テ上下ニ位シ上大下小ナリ他ノ二個ハ後小部ノ下方即チ鱗狀部ニ於テ前後ニ列シ就中後ノ一個ハ三角形ニシテ乳樣隅ニアリ縫合骨ハ周圍骨及ヒ相互ノ間ハ鱗狀縫合ノ形ヲナス

前大部ノ後下部ニ下方ニ向ヒシ乳頭狀ノ突起アリ_{長サ約一、四高サ約〇、七巾約〇、八}其根ノ上後下前ニ二個ノ孔(導血管孔?)ヲ見ル此突起ニヨリ顛顛線ハ中斷セラレ顛倒シタルオーメガ字形ヲ呈ス

其他矢狀縫合ノ後方并ニ三角縫合ノ上端互ニ一、五仙迷ヲ隔テ、二個ノ縫合骨存在ス

己上記シタル如クニテ當教室ニ於テモ稀有ニ屬シ一二成書ヲ涉リシモ余ノ淺學如斯異常ノ報告等ヲ發見シ不能今圖ヲ添ヘ先進諸兄ノ垂教ヲ待ツ

○附圖、第壹表……第一、一、二、一三圖

(明治四十年十二月三日受領)

表 一 第

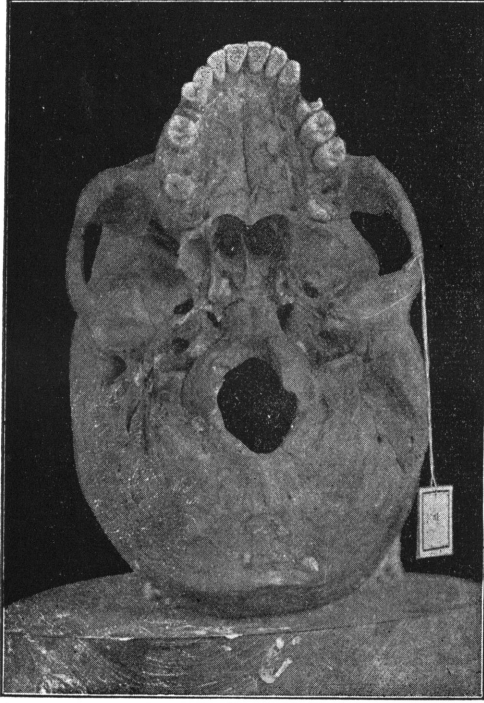


圖 三 第

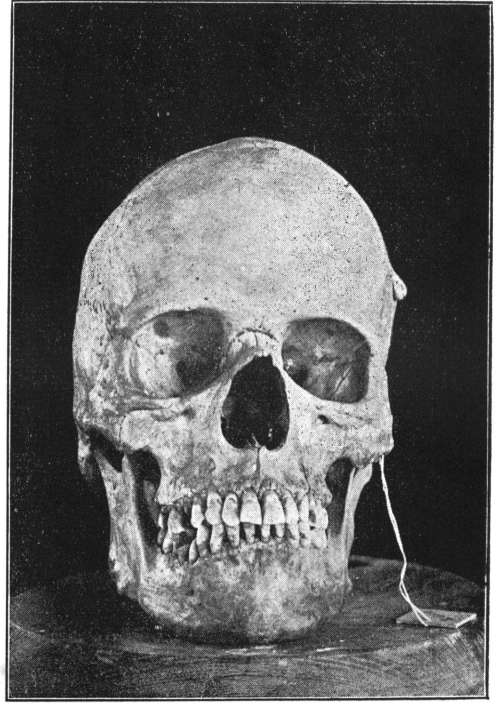


圖 一 第

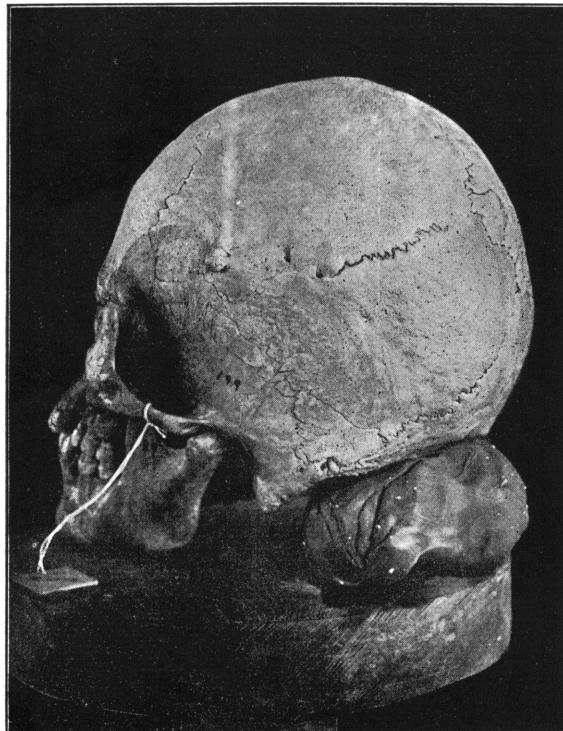


圖 二 第

中野論文附圖